



大きくせり出した古典的なひさしと、創業当時から使われている看板が味わいある雰囲気を出している



時代がかった木製のドア、クラシカルなランプなど、すべてがヨーロッパの古き良き時代の香りを強く感じさせる



アール・ヌーボーのロビーは個人の邸宅といった趣で、正面の壮麗なラウンジ「Palm Court」に思わず目を奪われる



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

www.jhrca.com/worldhotel

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。

## ザ・リッツカールトン モントリオール Ritz-Carlton Montreal

www.jhrca.com/worldhotel?cat42

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



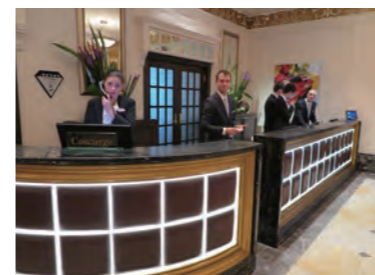
「The Ritz-Carlton Montreal」の正面ファサード。モントリオールで最古のホテルとして君臨し、風格を感じさせるその外観は往時の華やかな残り香を今に伝えているようだ



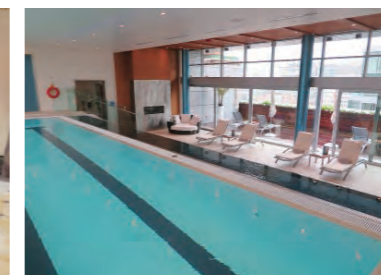
通常は見慣れた王冠に獅子マークだが、独自のライオンのロゴと優美なカリグラフィーの文字を使用している



正面エントランスの回転ドア。ここにもモントリオール独自のライオンのロゴマークが見られる



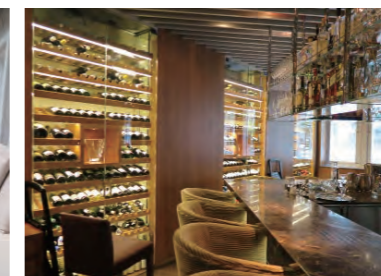
コンシェルジュと一体となった涼しいレセプションデスク



ホテル最上階ペントハウスにはスタイリッシュなプール「Rooftop Pool」を用意している



メインダイニング「Maison Boulud」はアメリカの仏料理界を代表する重鎮、ダニエル・プリュ氏監修の名店



「Maison Boulud」に付随したバーカウンター



「Jr. Suite King Room」のベッドルーム。約55㎡の広さがあるコンテンポラリー感覚のスイートだ。シッティングエリアも広く、ガラスのデスクコーナーも使い勝手が良好である



コーナーにはファイアプレースを配して、落ち着いた雰囲気を演出している



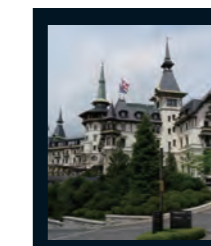
広い面積を確保したスタイリッシュなバスルーム

リッツカールトンの第1号ホテルとなったのは1927年開業の「The Ritz-Carlton Boston」(本誌Vol.117参照)だが、実はそれより古いホテルがカナダにある。モントリオールにある「The Ritz-Carlton Montreal」(以下、RC/M)である。このホテルがオープンしたのは1912年12月31日。セザール・リッツはまだ存命中で、彼の経営哲学を受け継いだ「The Ritz-Carlton Managed Company」がニューヨークやモントリオールなど北アメリカにホテルを展開していた。第2次世界大戦を境にホテル運営の趨勢は衰え、モントリオールとボストンだけが生き残り、それぞれ独立したホテルとして営業を続けていった。

やがて1980年代に新たな命が吹き込まれる。アトランタの資本家W・B・ジョンソンによって「The Ritz-Carlton Hotel Company」と改組した新会社はH・シュルツ氏を副社長として迎え、今日の隆盛の礎を築いていった。ボストンはその後、同カンパニーの一員となり第1号ホテルとして認知されていく。一方、モントリオールは当時の投資家の1人、C・ホスマーがセザール・リッツより「Ritz-Carlton」の名称使用許可を得ていたため、ロゴマークも違っている。通常は見慣れた王冠に獅子マークだが、モントリオールだけはその生い立ちが異なり、独自のライオンのロゴマークと優美なカリグラフィーの文字を使用している。

RC/Mはモントリオールで最古のホテルとしても有名だ。風格を感じさせるその外観は、昔ながらの看板と共に味わいある雰囲気を醸し出している。アールヌーボーのロビーは個人の邸宅といった趣で、正面の壮麗なラウンジ「Palm Court」に目を奪われる。筆者にアサインされた部屋は「Jr. Suite King Room」で約55㎡の広さがあり、暖炉を配したコンテンポラリー感覚のスイートだ。メインダイニング「Maison Boulud」はアメリカのフランス料理界を代表する重鎮、ダニエル・プリュ氏監修の名店で、中庭に面したエレガントなテラス席がお勧めだ。ホテル最上階ペントハウスにはスタイリッシュなプール「Rooftop Pool」を用意しており、美しい市内の景色を眺めながら楽しめる。

RC/Mは世界に数あるリッツカールトンの中でも特別な存在である。現在も100年以上前に開業した当時の雰囲気を忠実にとどめている。大きくせり出した古典的なひさしとランプ、時代がかった木製のドア、高い天井に小粋なシャンデリアなど、すべてがヨーロッパの古き良き時代の香りを強く感じさせる。ここは「北米のパリ」と称えられるモントリオールの珠玉のホテルと言えよう。



小原 康裕 渾身の写真集第二弾  
WORLD'S PRESTIGE HOTELS  
「世界の名門ホテル」  
絶賛発売中

世界最高ランクのホテルの  
美しい写真と解説にご期待ください。